

プログラム名	森のレストラン
ねらい	草花や樹木などを食材に見立て、料理のように画用紙に並べる活動を通して、身近な自然を利用した遊びの面白さ、自然物の色や形などの多様さなどに気付くことができる。
内 容	木の実や落ち葉、枝など、拾い集めた草花や樹木を画用紙の上に並べて、「料理」をつかって遊ぶ活動です。

◆ 関連付けて取り組みやすい各教科等の内容

・ 小学校 生活 身近な人々、社会及び自然と関わる活動 (5) 季節の変化と生活 (6) 自然や物を使った遊び	
・ 小学校 図画工作 A表現	など

※学校の実態に応じて、総合的な学習の時間及び特別活動と関連付けて実施することも可能です。

◆ 活動の様子



【木の実や葉っぱの組み合わせを楽しむ様子】



【自然物の色や形から発想を広げる子ども】

◆ 活動を通して育成が期待される主な資質・能力

学習指導要領に示されている資質・能力		“「問い」を発する子ども”の具体的な姿	
実際の社会や生活で生きて働く 知識及び技能の習得	○	問題を発見する姿 「それは、どういうことか？」	
未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力等の育成		解決に向けて他者と関わろうとする姿 「こうするとよいのではないか？」	
学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性等の涵養		主体的に問題解決を図ろうとする姿 「こう考えるがどうか？」	○

◆ プログラムの展開例 「森のレストラン」

学校等での 事前学習 ※必要に応じて	・ 学校の校庭で、身の回りにある自然を観察する。 ・ 公園で動植物を観察したり、公園に来ている人と関わったりする。 ・ 公園にある自然や物を使った遊びを考え、みんなで楽しく遊ぶ。	
大館 少年自然の家 での 学習 【100分】	児童生徒の活動内容	指導者側の留意点
	1. 活動のめあてを確認する。【5分】 きのみやはっぱでりょうりをつくって、 たのしくあそぼう。	・ どんな料理をつくりたいか思い描けるように、身の回りにある木の実や落ち葉について想起させる。
	2. 活動の見通しをもつ。【10分】 ・ 活動場所、活動の流れを確認する。	・ 安全に活動できるように、活動の約束や危険な動植物などを伝える。
	3. 木の実や落ち葉を集める。【30分]	・ 自然物の色や形の多様さなどに気付けるように、視点を示す。
	4. 集めた木の実や落ち葉を画用紙の上に並べ、料理をつくって遊ぶ。【30分]	・ 遊びの面白さに気付けるように、自由な発想を大切に、それを引き出す声掛けをする。【学校職員】
	☆次のような「問い」を発見し、解決に向かって試行錯誤する場面」を支援します☆	
	“問い”の例 ◎木の実はどこにあるのかな？ ・ 集めた材料で何をつくらうかな？ ・ どんな工夫ができるかな？ 発言：児童生徒 支援：指導者 今度はデザートをつくってみよう。 更に工夫できることはないか問いかける。 他の木の実や葉っぱも探してみよう。 解決の姿 ◎どんぐりはナラの近くにあるんだ。 ・ どんぐりをカレーライスにしよう。 ・ 赤い木の実を福神漬にしてみよう。 どんぐりは、木の下にありそうぞ。 適宜、草花や樹木について話をする。 どんぐりの色に似ている料理は...	
		・ 自然物の特徴を作品作りに生かそうとする態度を褒め、意欲を高める。【学校職員】
	5. 活動のまとめをする。【20分]	・ 活動のねらいに沿ってまとめらるように、活動シートを準備する。
	6. 活動を振り返る。【5分]	・ 振り返りの視点を示す。
学校等での 事後学習 ※必要に応じて	・ 季節（の変化）と自分たちの生活の関わりについて振り返る。 ・ 拾い集めた木の実や落ち葉などを使っておもちゃをつくる。 ・ つくったおもちゃで、友達や園児と遊ぶ。	

プログラム名	グリーンウォッチング
ねらい	自然の家周辺に自生する樹木を観察し、それぞれの樹木の特徴について仲間と話し合う活動を通して、身近にある自然環境の豊かさを実感したり、樹木についての興味を高めたり、生物を愛護する態度を養う。
内 容	グループごとにコース上に設定されたチェックポイントにある樹木を観察し、ヒントを基にその樹木の名前を当てる野外活動です。（活動時間は2時間としていますが、1時間程度で実施可能なミニコースも選択できます。）

◆ 関連付けて取り組みやすい各教科等の内容

・ 小学校 理科 第4学年 B生命・地球(2) 季節と生物
・ 小学校 社会 第5学年 (5) 我が国の国土の自然環境と国民の生活との関連
・ 小学校 国語 第3～6学年 B書くこと

など

※学校の実態に応じて、総合的な学習の時間及び特別活動と関連付けて実施することも可能です。

◆ 活動の様子



【チェックポイントにある樹木を観察する様子】



【樹木の特徴から、樹木名を予想する子どもたち】

◆ 活動を通して育成が期待される主な資質・能力

学習指導要領に示されている資質・能力		“「問い」を発する子ども”の具体的な姿	
実際の社会や生活で生きて働く 知識及び技能の習得		問題を発見する姿 「それは、どういうことか？」	
未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力等の育成		解決に向けて他者と関わろうとする姿 「こうするとよいのではないか？」	
学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性等の涵養	○	主体的に問題解決を図ろうとする姿 「こう考えるがどうか？」	○

◆ プログラムの展開例 「グリーンウォッチング」

学校等での 事前学習 ※必要に応じて	・ 身近な植物について、探したり育てたりする。 ・ 森林の分布について調べたり、森林の働きについて考えたりする。 ・ 新聞やリーフレット、詩、俳句に触れたり、言葉集めをしたりする。	
大館 少年自然の家 での 学習 【120分】	児童生徒の活動内容	指導者側の留意点
	1. 活動のめあてを確認する。【5分】 樹木を観察して自然に親しもう。	・ 樹木に触れた経験を聞き、身近にある樹木への関心を高める。 ・ 説明用の図や写真を掲示する。 ・ グループで話し合ったり、作戦を考えたりする時間を設ける。
	2. 活動の見通しをもつ。【15分】 ・ 活動の流れや観察するポイント、危険箇所を確認する。	・ 先に出発して安全確認をする。最後の班の後方にも職員が付く。 ・ 葉や幹の特徴の他に、視覚以外の特徴についても気付けるように助言する。【学校職員】
	3. グループごとにコースを回り、樹木を観察する。【85分】 ・ 活動シート(ヒント)を基に、樹木の特徴を調べる。 ・ 樹木の名称を予想する。	
	☆次のような「“問い”を発見し、解決に向かって試行錯誤する場面」を支援します☆	
“問い”の例 ◎□番の木には、どんな特徴があるかな？ ・ 似ているけど、どこに違いがあるの？ ・ この木は、学校にもあるのかな？ 葉の形や木肌をよく観察してみよう。 見ただ目で分からないから、触ってみよう。 葉や幹の触感や匂いはどうか聞く。 ◎樹皮が赤茶色だから、アカマツだね。 ・ 手触りや匂いに注目しよう。 ・ 学校にも同じ木がたくさんあったよ。 家の周りにもたくさんの種類の木があるね。 自然の家で発見した樹木の特徴を確認する。 家の周りにある木も調べてみたいな。 解決の姿 発言：児童生徒 支援：指導者		
	4. 活動のまとめをする。【10分】 ・ 樹木の特徴を情報交換する。	・ 植物の特徴を捉えた児童生徒の発言を拾い上げ、全体に広げる。【学校職員】 ・ 解答シートを見比べたり、樹木の特徴を話したりする時間を設ける。
	5. 活動を振り返る。【5分】	・ 振り返りの視点を示す。
学校等での 事後学習 ※必要に応じて	・ 植物の成長や季節による変化を調べたり、観察したりする。 ・ 森林資源の果たす役割や自然環境について考え、議論する。 ・ 調べたことや体験したことを新聞やリーフレット、詩、俳句などで表す。	

プログラム名	化石掘り
ねらい	大地の下がどのようなになっているのか予想し、大地のつくりについて問題を見いだしたり、化石を採取したりすることを通して、昔のその場所の様子を考えることができる。
内 容	ハンマーとタガネを使って実際に化石を採取したり、地層に含まれている構成物を採取したりします。（化石掘りは出前での実施も可能です。）

◆ 関連付けて取り組みやすい各教科等の内容

・ 小学校 理科 第6学年 B生命・地球 (4)土地のつくりと変化 ・ 中学校 理科 第1学年 第2分野 (2)大地の成り立ちと変化	など
---	----

※学校の実態に応じて、総合的な学習の時間と関連付けて実施することも可能です。

◆ 活動の様子



【用具を使って化石を採取している様子】



【化石について先生と考察を深める子ども】

◆ 活動を通して育成が期待される主な資質・能力

学習指導要領に示されている資質・能力		“「問い」を発する子ども”の具体的な姿	
実際の社会や生活で生きて働く 知識及び技能の習得		問題を発見する姿 「それは、どういうことか？」	○
未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力等の育成	○	解決に向けて他者と関わろうとする姿 「こうするとよいのではないか？」	
学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性等の涵養		主体的に問題解決を図ろうとする姿 「こう考えるがどうか？」	

◆ プログラムの展開例 「化石掘り」

学校等での 事前学習 ※必要に応じて	・ 6年生理科の土地のつくりと変化の授業を進め、地層について調べる。 ・ 体験を今後の学習に生かすために、ワークシート等に化石掘りのめあてや調べたいことを記入する。	
保呂羽山 少年自然の家 での 学習 【90分】	児童生徒の活動内容 1. 活動のめあて等を確認する。【10分】 化石を見つけて大地のひみつを探ろう。 ・ めあて、活動の流れを確認する。 ・ 安全に関する注意点を確認する。	指導者側の留意点 ・ 学校での事前学習を想起させ、めあてや活動のポイントを確認する。 ・ ハンマーとたがね、防護めがねの使い方を指導する。
	2. 場所を移動し、化石に関する話を聞いたり、化石掘りをしたりする。【70分】	・ 活動に往復20分の徒歩移動が含まれることを考慮しておく。 ・ どのような岩に化石があり、その化石からここは昔どのような場所だったのかなど、考えながら活動するよう助言する。【学校職員】
	☆次のような「問い」を発見し、解決に向かって試行錯誤する場面」を支援します☆ “問い”の例 ・ どんな岩に化石があるのかな？ ・ どんな化石が見つかるのかな？ ◎この化石はどんな場所でできたの？ 発言：児童生徒 支援：指導者 解決の姿 貝や葉っぱの化石が出てきたよ。 岩の色が変わっている境目に化石があるよ。 葉っぱの化石を見つけたよ。 どんな海（浅い、深い）でできたのか考えさせる。 他にどんな化石があるか探してみよう。 割れた岩の断面をよく観察しようアドバイスする。 ・ 割れやすい岩の境目に化石があるよ。 ・ 貝や木の破片の化石があったよ。 ◎貝があったから、元は海だったんだ。	
	3. 活動のまとめをする。【5分】	・ 化石をなかなか見付けられない児童生徒に適宜支援をする。【学校職員】 ・ どのような場所で、どのように化石ができるのか、考えを整理する。
	4. 活動を振り返る。【5分】	・ 振り返りのポイントを示す。
学校等での 事後学習 ※必要に応じて	・ 採取した化石を保護するためにコーティングを行う。 ・ 採取した化石を教材として、理科の授業を展開する。	

プログラム名	自然素材工作
ねらい	どんぐりや松ぼっくりなどの数多くの自然素材の感触を確かめたり、自分で拾い集めた自然物を含めた素材を自由に組み合わせて工作したりする活動を通して、想像力や直感力を発揮した独創的な作品づくりをすることができる。
内 容	素材を手にした感触を楽しみながら、土台となるアケビのつるのリースや丸い板に、グルーガンを使って様々な自然物を接着して作品を仕上げます。

◆ 関連付けて取り組みやすい各教科等の内容

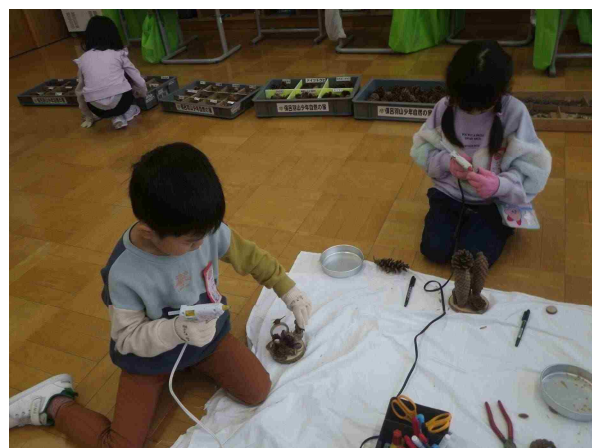
・ 小学校 生活 身近な人々、社会及び自然と関わる活動 (5) 季節の変化と生活 (6) 自然や物を使った遊び	
・ 小学校 図画工作 A表現	など

※学校の実態に応じて、特別活動と関連付けて実施することも可能です。

◆ 活動の様子



【みんなで自然物を集めている様子】



【作品を見せ合いイメージを膨らませる子どもたち】

◆ 活動を通して育成が期待される主な資質・能力

学習指導要領に示されている資質・能力		“「問い」を発する子ども”の具体的な姿	
実際の社会や生活で生きて働く 知識及び技能の習得		問題を発見する姿 「それは、どういうことか？」	
未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力等の育成	○	解決に向けて他者と関わろうとする姿 「こうするとよいのではないか？」	
学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性等の涵養		主体的に問題解決を図ろうとする姿 「こう考えるがどうか？」	○

◆ プログラムの展開例 「自然素材工作」

学校等での 事前学習 ※必要に応じて	・ 様々な素材を自由に組み合わせ、自分なりの作品を作る機会を設ける。 ・ 学校や家庭で、身の回りにある秋の自然物を集める。		
保呂羽山 少年自然の家 での 学習 【80分】	児童生徒の活動内容 1. 活動のめあてを確認する。【3分】 秋のそざいでへやかざりを作ろう 2. 作り方の説明をする。【5分】 ・ 活動の留意点を伝える。 3. 自然物を組み合わせて工作活動をする。【62分】 ・ 自分で集めた素材を工夫して使うことを伝える。	指導者側の留意点 ・ いろいろな素材に触れさせ、工作へのイメージを膨らませる。 ・ 制作の手順や気をつけること（特にやけどへの注意喚起）と時間の目安を設定し、ゴールの見通しをもたせる。 ・ 自然物がどのような場所で拾えるか、その特徴は何かなど、素材に関する質問に答えられるよう事前に関係者間で情報を共有する。 ・ 素材の組み合わせやその接着について適宜支援をする。【学校職員】	
	☆次のような「問い」を発見し、解決に向かって試行錯誤する場面」を支援します☆ “問い”の例 ◎昆虫を作るにはどうすればいいかな？ ・ このエビフライみたいな材料は、どうやってできたのかな？ ◎どうして松ぼっくりはうまく立たないのかな？ 昆虫図鑑を見てこよう。 他の素材も見てみよう。 松ぼっくりの下って丸くなってる！ 発言：児童生徒 支援：指導者 自分なりに工夫しているところを見つけてあげる。 工作のヒントを示唆したり、友だちから工夫点を見つけようアドバイスする。 ◎図鑑を見ると虫は体が3つになってるから3個組み合わせてみよう。 ・ 「森のエビフライ図鑑」にリスが載っている。リスの食事の食べ残しなんだ！ ◎土台に筒みたいのを敷いてみよう。 〇〇君のやり方工夫してすごい！ 解決の姿		
	4. 活動のまとめをする。【5分】 ・ 道具、素材の後片付けをする。 5. 活動を振り返る。【5分】	・ 自然物の特徴を生かした作品づくりをしている児童を褒め、意欲を高める。【学校職員】 ・ 自分が作品を作るにあたり、工夫したことをまとめる。 ・ 振り返りのポイントを示す。	
	学校等での 事後学習 ※必要に応じて	・ 友達の作品を鑑賞して互いの工夫したところや気に入ったところを話したり、季節の変化を自分の生活の中に取り入れて楽しむ計画を立てたりする。 ・ 自然物を使った遊び道具を作り、保育園等に出向いて遊ぶ活動に発展させる。	

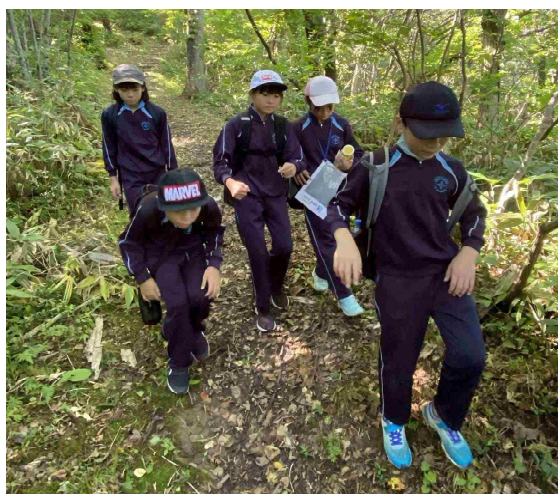
プログラム名	植物ネイチャービンゴ
ねらい	写真と照合しながら野草の観察をしたり、特徴を示すヒントから野草を特定したりすることを通して、野草の種類や生育の様子について関心を高めたり、自然を愛護したりする態度を養う。
内 容	季節の野草（樹木）についての写真や特徴が示されたシートを活用し、植物を探しながら野山を探索します。また、見つける楽しさをより感じてもらえるように、シートをビンゴ形式にしています。

◆ 関連付けて取り組みやすい各教科等の内容

- ・ 小学校 理科 第3学年 B 生命・地球(1) 身の回りの生物
- ・ 小学校 理科 第4学年 B 生命・地球(2) 季節と生物
- ・ 小学校 理科 第5学年 B 生命・地球(1) 植物の発芽、成長、結実
- ・ 小学校 理科 第6学年 B 生命・地球(2) 植物の養分と水の通り道
- ・ 中学校 理科 第1学年 第2分野 (1) いろいろな生物とその共通点 など

※学校の実態に応じて、総合的な学習の時間及び特別活動と関連付けて実施することも可能です。

◆ 活動の様子



【友達と相談しながら野草を探索する様子】



【植物ネイチャービンゴシート】

◆ 活動を通して育成が期待される主な資質・能力

学習指導要領に示されている資質・能力		“「問い」を発する子ども”の具体的な姿	
実際の社会や生活で生きて働く 知識及び技能の習得		問題を発見する姿 「それは、どういうことか？」	
未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力等の育成		解決に向けて他者と関わろうとする姿 「こうするとよいのではないか？」	
学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性等の涵養	○	主体的に問題解決を図ろうとする姿 「こう考えるがどうか？」	○

◆ プログラムの展開例 「植物ネイチャービンゴ」

学校等での 事前学習 ※必要に応じて	・ 野外を散策する際、服装や持ち物等の約束及び気を付けることを確認する。 ・ 身の回りの野草や樹木を観察する。 ・ 季節によって植物の様子に違いがあることを観察する。	
岩城少年自然の家での学習 【80分】	児童生徒の活動内容 1. 活動のめあてを確認する。【5分】 山中で季節の植物を見つけ出そう。 2. 活動の見通しをもつ。【5分】 ・ シートの記入方法等を確認する。 3. グループごとに自然散策コース上で、シートにある植物を探し、特定する。【60分】 ・ 活動範囲を明確にする。	指導者側の留意点 ・ 諸条件から、当植物は時期限定のことを伝え、探索の意欲を高める。 ・ かぶれる植物について知らせる。 ・ 活動範囲を示す地図を配付し、探索の見通しがもてるようにする。 ・ 学校職員と連携し、活動の際の安全確保に努める。 ・ 活動状況に応じて、植物を見付けるコツや見分け方のポイント等を適宜助言する。【学校職員】
	☆次のような「問い」を発見し、解決に向かって試行錯誤する場面」を支援します☆ “問い”の例 見た感じはそっくりだけど、どこか違う感じの植物があるよ。 ◎植物のある場所には理由があるのかな？ ・ 似ている花はどうやって見分けるの？ ・ 見付けにくい植物は、目立たないところにあったり、小さかったりするのだろうか？ これは間違いなくこの植物だと思う！ 見分け方のポイントとして、花だけでなく、葉の形やつき方にも目を向けることができるようにする。 発言：児童生徒 支援：指導者 地図に生育場所の様子も書き込むよう促す。 ◎水辺や木陰など、植物それぞれに生育場所が違ってたね。 さわった感じやにおいが特徴的なものがあるよ。 ・ 見た目以外にも手がかりがあるんだね。 ・ 花だけでなく、葉や茎など他の部分も植物を特定する役に立つね。 同じ植物は似たような所に咲いているね。 解決の姿	
	4. 活動のまとめ、報告をする。【5分】	・ それぞれの植物の特徴を捉え、観察している姿勢を褒め、興味・関心を高める。【学校職員】 ・ 予想に対して、見付けた場所の様子を考えることができるようにする。
	5. 活動を振り返る。【5分】	・ 身の回りの植物への関心を高める。
学校等での 事後学習 ※必要に応じて	・ 教科書に載っている植物を身の回りでも観察してみる。 ・ 図鑑や情報端末を活用し、植物の生育地や構造についての理解を深める。 ・ 季節の七草や他教科等にも関連付ける。	

プログラム名	防災スキル
ねらい	防災に役立つ講座・演習を通して防災意識を高め、必要に応じて自助・共助ができるようにするための考え方やスキルを身に付け、主体的に問題を解決しようとする態度を養う。
内 容	防災簡易炊飯（袋・アルミ缶）を行ったり、簡易パーティション・油や電灯を用いたランタン・防寒グッズなどの製作をしたりします。

◆ 関連付けて取り組みやすい各教科等の内容

・ 小学校 社会 第4学年(3) 自然災害から人々を守る活動
・ 小学校 社会 第5学年(5) 我が国の国土の自然環境と国民生活との関連
・ 中学校 地理 C 日本の様々な地域(2) 日本の地域的特色と地域区分 など

※学校の実態に応じて、総合的な学習の時間及び特別活動と関連付けて実施することも可能です。

◆ 活動の様子



【段ボールによるパーティション作成の様子】



【ナイロン袋を使った防災簡易炊飯の様子】

◆ 活動を通して育成が期待される主な資質・能力

学習指導要領に示されている資質・能力		“「問い」を発する子ども”の具体的な姿	
実際の社会や生活で生きて働く 知識及び技能の習得		問題を発見する姿 「それは、どういうことか？」	
未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力等の育成		解決に向けて他者と関わろうとする姿 「こうするとよいのではないか？」	○
学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性等の涵養	○	主体的に問題解決を図ろうとする姿 「こう考えるがどうか？」	

◆ プログラムの展開例 「防災スキル」(避難所生活設定)

学校等での 事前学習 ※必要に応じて	- 各家庭にある防災マップや防災用具について、家族と確認し合う。 - 今まで自分が見聞きした災害はどのようなものがあつたかを想起する。 - 各自が知っている防災スキルや防災知識について紹介し合う。											
岩城 少年自然の家 での 学習 【100分】	<table><thead><tr><th>児童生徒の活動内容</th><th>指導者側の留意点</th></tr></thead><tbody><tr><td>1. 活動のめあてを確認する。【5分】 災害時に自分や家族を守ろう！ </td><td> - 自他の命を守るための活動だということを強く認識できるようにする。 </td></tr><tr><td>2. 災害や場面の設定を理解する。【5分】 - おおまかな活動の流れを把握する。 </td><td> - 大きな災害時の設定であることを伝え、目的意識を高める。 </td></tr><tr><td>3. 災害のケースや災害時に必要な対策を考え、必要なスキルを学ぶ【60分】 - 今回の災害ケース以外にも、想定される場面を思い浮かべ、考えを交流し合う。 </td><td> - 避難所での集団生活を想定し、役割分担を促す。 - 水道や電気が無いなどのライフラインの条件に伴い、様々なスキルや行動が必要であると気付くことができるようにする。【学校職員】 </td></tr><tr><td colspan="2">☆次のような「“問い”を発見し、解決に向かって試行錯誤する場面」を支援します☆</td></tr></tbody></table>	児童生徒の活動内容	指導者側の留意点	1. 活動のめあてを確認する。【5分】 災害時に自分や家族を守ろう！	自他の命を守るための活動だということを強く認識できるようにする。	2. 災害や場面の設定を理解する。【5分】 おおまかな活動の流れを把握する。	大きな災害時の設定であることを伝え、目的意識を高める。	3. 災害のケースや災害時に必要な対策を考え、必要なスキルを学ぶ【60分】 今回の災害ケース以外にも、想定される場面を思い浮かべ、考えを交流し合う。	- 避難所での集団生活を想定し、役割分担を促す。 - 水道や電気が無いなどのライフラインの条件に伴い、様々なスキルや行動が必要であると気付くことができるようにする。【学校職員】	☆次のような「“問い”を発見し、解決に向かって試行錯誤する場面」を支援します☆		“問い”の例 ニュースでいろいろな画像や映像をみたことがあるよ。 発言：児童生徒 ◎災害時に自分にできることがある？ - 災害時に社会の様子はどんなになる？ - 普段から備えておけることは何？ ライフラインが戻るまでがんばるぞ。 自助、共助、公助の違いや仕組みについて解説をする。 一人では大変な状況でも助け合うことができるんだ。 解決の姿 発言：児童生徒 支援：指導者 ストレスを減らすことも大切な取組だ。 防災スキルを身につけることが、非常時の生活の助けになりそうだ。 災害時に不便になることは、どんなことかを問いかける。 様々なスキルがいざというとき役立つ。 被害によっては、避難も必要だ。 災害の種類によって対策が違う。
	児童生徒の活動内容	指導者側の留意点										
	1. 活動のめあてを確認する。【5分】 災害時に自分や家族を守ろう！	自他の命を守るための活動だということを強く認識できるようにする。										
	2. 災害や場面の設定を理解する。【5分】 おおまかな活動の流れを把握する。	大きな災害時の設定であることを伝え、目的意識を高める。										
	3. 災害のケースや災害時に必要な対策を考え、必要なスキルを学ぶ【60分】 今回の災害ケース以外にも、想定される場面を思い浮かべ、考えを交流し合う。	- 避難所での集団生活を想定し、役割分担を促す。 - 水道や電気が無いなどのライフラインの条件に伴い、様々なスキルや行動が必要であると気付くことができるようにする。【学校職員】										
☆次のような「“問い”を発見し、解決に向かって試行錯誤する場面」を支援します☆												
4. 活動のまとめをする。【25分】 「タイムライン」の手法でまとめる。	主体的に問題解決に取り組んでいる様子を褒め、防災に対する意欲を高める。【学校職員】											
5. 活動を振り返る。【5分】	一人一人の気づきを認める。											
学校等での 事後学習 ※必要に応じて	- 国や地方公共団体が災害に対して、どんな対策や事業をしているかを調べる。 - 実生活においてどんなケースにどんな防災スキルを活用できるか考える。 - 避難訓練の際に、関連付けられる考え方や行動、スキル等について話し合う。											

プログラム名	ピザづくり
ねらい	ピザの調理を通して、包丁の扱いに慣れ、熱の通りをよくしたり食べやすくしたりするなどの目的に合わせて、材料を適切に切ることができる。
内 容	白神こだま酵母を使用した発酵種でピザを作ります。生地をのばしたり具材を包丁で切ったりする体験があります。自分たちで作ったピザを焼き上げた後は、みんなで楽しく会食します。

◆ 関連付けて取り組みやすい各教科等の内容

・ 小学校 家庭 B衣食住の生活(2) 調理の基礎 ・ 中学校 技術・家庭 家庭分野 B衣食住の生活(3) 日常食の調理と地域の食文化	など
--	----

※学校の実態に応じて、総合的な学習の時間及び特別活動と関連付けて実施することも可能です。

◆ 活動の様子



【彩りを考えて思い思いにトッピングする様子】



【アドバイスし合って、交代で食材を切る様子】

◆ 活動を通して育成が期待される主な資質・能力

学習指導要領に示されている資質・能力		“「問い」を発する子ども”の具体的な姿	
実際の社会や生活で生きて働く 知識及び技能の習得	○	問題を発見する姿 「それは、どういうことか？」	
未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力等の育成		解決に向けて他者と関わろうとする姿 「こうするとよいのではないか？」	
学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性等の涵養		主体的に問題解決を図ろうとする姿 「こう考えるがどうか？」	○

◆ プログラムの展開例 「ピザづくり」

学校等での 事前学習 ※必要に応じて	・ 体験活動「ピザづくり」の食材について、栄養的な特徴を調べる。 ・ 食器や包丁等の用具の安全で衛生的な取扱いについて知り、扱いに慣れる。		
あきた白神 体験センター での 学習 【110分】	児童生徒の活動内容 1. 活動のめあてを確認する。【5分】 具の大きさを整えて切り、おいしいピザを焼こう。 2. 活動の見通しをもつ。【15分】 ・ 材料と作り方を確かめる。 ・ 包丁の安全な使い方を確認する。 ・ 切り方について意見交換する。 3. 具材に適した大きさに切る。【20分】 ・ タマネギ、ピーマン、ミニトマト、ベーコンを包丁で切る。 ・ グループやペアで教え合って切る。	指導者側の留意点 ・ 包丁の安全な扱い方とピザづくりの調理手順を掲示しておく。 ・ 具材に十分熱を通すこと、食べやすくすることの2点を視点として示す。 ・ 仕上がりのイメージをもつことができるように、班内のペアで具材の切り方を相談する時間をつくる。	
	☆次のような「“問い”を発見し、解決に向かって試行錯誤する場面」を支援します☆		
	“問い”の例 ◎火を通りやすくするために薄く切ってみるのはどうかな？ ・ 転がるミニトマトを安全に切るには？ いい考えだね。小さく切る方法もあると思うよ。 トマトのヘタを取った凹みを下にするといいよ。 発言：児童生徒 支援：指導者 食べやすさや見た目も考えて切ろう。 食感や彩りのバランスも切り方によって変化することを伝える。 平らな面を下にすると安定することを教える。 ◎薄く小さく切れたぞ。これで早く熱が入りそうだ。 ・ 安全に包丁で切ることができた。 タマネギも切り進めた後半に倒すと安全に切れるよ。 解決の姿		
	4. 生地をのばして具材をのせる。【20分】 5. ピザをホットプレートで焼く。【20分】 6. 会食して活動を振り返る。【30分】	・ 安全や衛生に注意して調理している様子を褒め、意欲を高める。【学校職員】 ・ 片付けや食器の準備をする。 ・ 振り返りのポイントを示す。	
	学校等での 事後学習 ※必要に応じて	・ 食材の切り方の他に、包丁の運び方、渡し方、置き方、洗い方など多様な観点から包丁の扱いについて調べる。 ・ 地域の具材を使って、オリジナルのピザを作ってみる。	

プログラム名	小枝のボールペン
ねらい	材料の枝選びから始める小枝ペンの創作を通して、感じたことや見たことから発想や構想をし、形や装飾を工夫して作ることができる。
内 容	小枝の形や色、持ったときの重さや感触を味わいながら材料を選びます。小刀やホットペン等の用具を用いて削ったり装飾したりしながら、手製の小枝ペンをつくります。

◆ 関連付けて取り組みやすい各教科等の内容

・ 小学校 図画工作 第3～6学年 A表現 ・ 中学校 美術 第1～3学年 A表現	など
--	----

※学校の実態に応じて、総合的な学習の時間及び特別活動と関連付けて実施することも可能です。

◆ 活動の様子



【小刀でペンの形に削る様子】



【ドリルの使い方について教え合う子どもたち】

◆ 活動を通して育成が期待される主な資質・能力

学習指導要領に示されている資質・能力		“「問い」を発する子ども”の具体的な姿	
実際の社会や生活で生きて働く 知識及び技能の習得		問題を発見する姿 「それは、どういうことか？」	
未知の状況にも対応できる 思考力・判断力・表現力等の育成	○	解決に向けて他者と関わろうとする姿 「こうするとよいのではないか？」	○
学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性等の涵養		主体的に問題解決を図ろうとする姿 「こう考えるがどうか？」	

◆ プログラムの展開例 「小枝のボールペン」

学校等での 事前学習 ※必要に応じて	・ 小枝のボールペンの見本を見て、イメージを広げたり材料を集めたりする。 ・ 簡単な小刀類や小刀の使い方を知り、鉛筆を削るなどして、扱い方に慣れる。	
あきた白神 体験センター での 学習 【90分】	児童生徒の活動内容	指導者側の留意点
	1. 活動のめあてを確認する。【5分】 お気に入りの小枝を選んでオリジナルペンをつくろう。	・ 自分の思いに合う材料を見付けられるように、樹種や形、太さの違う小枝を十分に用意する。
	2. 活動の見通しをもつ。【5分】 ・ 工程を確かめる。 ・ 用具の種類と使い方を知る。	・ 用具を安全に使用できるように、正しい使い方を実際に見せて説明する。
	3. 小枝のボールペンをつくる。【70分】 ・ 小枝を選ぶ。 ・ 小枝にドリルで穴を開ける。 ・ 小刀で形を削り出す。 ・ ホットペンやカラーペンで装飾する。 ・ ペン芯を差して仕上げる。	・ イメージに合った材料をじっくり選べる時間を確保する。 ・ 活動の場を対面型で設定し、児童生徒の交流が生まれるようにする。 ・ よりよい作品にするために気付いたことを積極的に伝え合うよう助言する。【学校職員】
	☆次のような「“問い”を発見し、解決に向かって試行錯誤する場面」を支援します☆ “問い”の例 ・ 曲がった枝が気に入ったけどペンにできるかな？ ◎トレッキングで感じた森の様子を小枝ペンに表したい。 - ホットペンで何を描こうかな？ 発言：児童生徒 持つと手に馴染みそう。ヘビの形に見えてカッコいい。 支援：指導者 森の散策体験で印象深かったことを想起させる。 ペン先はヘビの頭の形に削ってみよう。顔も描くぞ。 描いた模様や色は、小刀で削ると修正でき、いろいろ試せることを伝える。 日光で輝くブナの葉がきれいだったな。 ・ 選んだ枝がますます気に入った。 - この形を生かしてデザインするぞ。 ◎ブナの葉をモチーフにしてホットペンでたくさん描いてみよう。 葉の模様はカラーペンで緑色にしたいな。 解決の姿	
	4. 後片付けをする。【5分】 5. 活動を振り返る。【5分】	・ 素材のよさを生かした作品作りをしている児童生徒を褒め、意欲を高める。【学校職員】 ・ 振り返りの観点を示す。
学校等での 事後学習 ※必要に応じて	・ 作品に題名を付け、展示する。 ・ 鑑賞会をひらき、発想や表し方、材料の生かし方などについて、よさや面白さを見つけながら楽しく見る。	